

華人教授会議の日中交流における地道な努力への評価

(株)富士通総研経済研究所 主席研究員 朱炎

2007年12月27日午前、日本華人教授会議の代表12名は首相官邸を訪問し、福田首相と30分あまり懇談した。参加者は朱建榮、王敏、関志雄、葉金花、周緯生、莫邦富、劉傑、任曉兵、張紀濤、劉徳強、宋立水、朱炎である。

首相との会見は、大勢の記者を前に全体写真の撮影から始まった。朱建榮代表は「日中間の『戦略的互惠関係』を発展させることに関する提案書を用意してきました」と話すと、首相は「では正式に受け取りましょう」とおっしゃって、再び立ち上がり、朱建榮氏から手渡される提案書を受け取るポーズを記者たちに見せて、写真を撮った。

日本首相の訪中は25年前から始まり、今回は10回目である。その訪問出発前、私たち華人教授会議のメンバーと懇談したことは歴史的な意義がある。福田首相は、「日中関係はみなさんにとって困った一時期もあったが、もう心配しなくていい」と切り出し、日中関係を発展させていく強い意思を示された。

今回の福田首相の中国訪問は一連のトップレベル会談以外に、北京大学で講演し、天津、山東省の曲阜を訪問することになっていて、懇談は私たちの意見を聞きたいという意向によるものでもあったようだ。そこで参加者はそれぞれ自分の専門分野から提案し、特に、いかに一般中国人の日本への理解を深め、同時に、福田首相の気持ちを伝えるかについて、日中両国の文化を知っている私たちならではの話をした。例えば、「湯島の孔子廟に世界最大の孔子像がある」と中国で紹介すれば中国側も驚くだろうと王敏はアドバイスしたところ、「そうなの」と首相自身も驚きの表情を見せた。朱建榮は孔子のふるさと曲阜を訪問する意義につい

て過去の共通点を強調するだけでなく、日中両国がともに東洋文化を一段と発展させ、東アジア共同体推進に当たってその基本理念をともに構築していくメッセージとすることを提案した。莫邦富は「残留孤児を育てた中国側の養父母へのメッセージを発したらどうか」と話し、首相は大きくうなずいた。話が進むにつれ、雰囲気は和み、劉徳強は日中の若手官僚の交流を提言する前に「自分は北京大学出身で、山東省生まれ」と自己紹介したところ、首相は、「今回の訪中は劉さんのために行くようなものだ」とユーモラスに語り、一堂の笑いを誘った。

ほかにも参加した各代表はそれぞれ発言し、葉金華と任曉兵は所属している物質・材料研究機構は約千人の研究者のうち中国人は130数人もおり、「研究所の中では互いに国籍の差を感じず仲良く協力し合っている」と紹介し、科学技術面における交流と共同研究の強化を提案した。関志雄は、「対中FTA推進は両国にとって有利」を説得力ある簡潔な表現で説明し、劉傑と周緯生は日中共通の東洋文化を発展させ、共同で学校を設立する提案を行い、周はさらに日中環境協力を進言した。また、莫邦富は外国人の入国指紋捺印の問題を指摘し、張紀濤は日本の地方経済振興のために中国からの投資誘致の意義を説明し、朱炎は日本が中国からの投資を受け入れ体制を整備する必要があると提案した。

懇談は当初、10分から15分までと外務省から説明を受けていたが、会談が始まるや、福田首相はだんだんと興味を示してくれ、何度も自らペンを取ってメモをし、時間は30分以上に及んだ。最後に、首相は「今度また話を聞きたい」とおっしゃって、もう一度記念撮影をして、